



人と化学の未来をめざして
マナック株式会社

CSR報告書2021

MANAC Incorporated CSR Report 2021

“生命の源”と言われる海水資源から生まれたマナックにとって、地球環境を守ることは使命のひとつです。お取引先様や地域社会の人々をはじめとするステークホルダーの皆様にご信頼される企業を目指し、責任ある企業活動を行っています。

本報告書では「マネジメント」、「環境への取り組み」、「安全衛生への取り組み」、「社会との関わり」、「責任ある調達」、「持続可能な社会に向けた取り組み（SDGs関連）」の6部構成で、持続可能な社会の実現に貢献するための様々な取り組みをご紹介します。

今後とも、CSR活動に取り組むとともに、皆さまとのコミュニケーションを図り、よりわかりやすい編集を目指していきます。

■ 報告対象期間

2020年4月～2021年3月

■ 報告対象組織

マナック株式会社を対象としています。なお、マナックグループの概要、財務ハイライトはマナックグループ連結の数値です。

■ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」、GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」

目次

編集方針	1
ごあいさつ	2
マナックグループの概要	3
マネジメント	
企業理念	4
経営理念	4
中期計画	4
今後の事業活動	4
コーポレート・ガバナンス	5
リスク管理	6
コンプライアンス	6
環境への取り組み	
マテリアルフロー	7
環境マネジメントシステム	7
省エネルギー	8
地球温暖化防止	9
廃棄物削減	9
化学物質の排出管理	10
その他	10
安全衛生への取り組み	
安全衛生管理体制の確立	11
健康の保持増進	12
心の健康づくり	12
保安・防災	13
化学物質安全・物流安全	13
社会との関わり	
地域活動	14
責任ある調達	
基本方針	16
サステナビリティ調査	16
持続可能な社会に向けた取り組み	
持続可能な開発目標（SDGs）への貢献	17
持続可能な開発目標（SDGs）との関連性	18
新規難燃材料（難燃WPC）の開発	19
Etak®セーフティーコート®	19
広島県SDGsビジネスセレクトブック	20

お問い合わせ先

マナック株式会社
企画管理本部 企画戦略室

TEL : (03) 3242-2561
FAX : (03) 3242-2564
E-mail : info@manac-inc.co.jp

自社のみならず、
お取引先様や地域社会の人々との連携を
進めることで、
サプライチェーン全体のCSR活動推進に
取り組んでまいります。



代表取締役社長

村田 耕也

中期計画2年目となる2020年度において、売上高は当初の計画よりも下回りましたが、連結経常利益は目標の4.8億円を大きく上回る7.1億円となり、3年連続の増益を達成しました。中期計画最終年度の2021年度に向けては、計画通りの連結経常利益を見込んでいます。引き続きROEの向上に努め、社会へ貢献する高収益企業を目指してまいります。

近年、「持続可能な調達」に対するお取引様からの注目度が増しており、企業の社会的責任の観点から調達先を選定するというCSR調達の考え方が重要視されつつあります。自社のみならず、お取引先様や地域社会の人々との連携が重要視されています。このような状況の中で、マナックでもお取引先様からのCSR調達関連の調査協力やガイドラインに賛同するほか、自社としての購買方針の作成及び調達先への提示・遵守の取り組みを検討しております。持続可能な社会の実現のために、サプライチェーン全体のCSR活動推進に取り組んでまいります。

その一環として、今回のCSR報告書期間中に、マナックは国際的なサステナビリティ調査機関EcoVadis社によるサステナビリティ調査を受けました。この調査は「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な調達」の4つの観点から企業の持続可能性を評価するものです。調査の結果、当社は「シルバー」評価（上位25%）を取得し、とくに「環境」の項目について高評価を得ております。

また、CSR活動以外にも、企業価値を向上させ、ステークホルダーの皆様からの期待に持続的に応えるには今まで以上に迅速かつ果敢に挑戦し続けることが必要と考えています。コロナ禍において、先の見えない状況の中、マナックグループとしての2028年のありたい企業像をいち早く、より強固に実現するために、持株会社体制に移行することにいたしました。今後は「マナック・ケミカル・パートナーズ」を中心に、「Challenge for Change」を加速しながら、CSR活動およびSDGsに関連する取り組みも推進します。新体制に挑戦する当社に対して、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

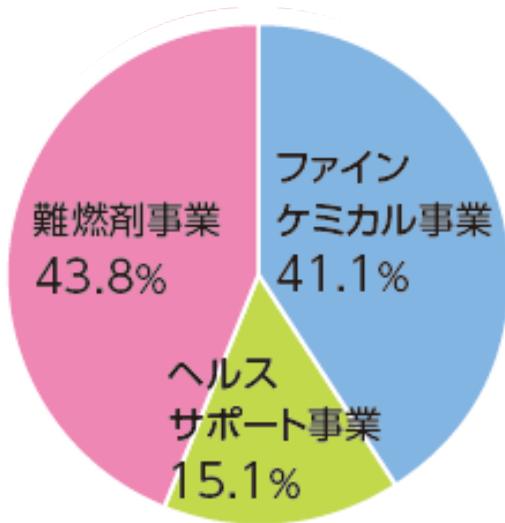
最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症については未だ予断を許さない状況ではございますが、ステークホルダーの皆様におかれましても、くれぐれもご自愛のうえ、引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。

マナックグループの概要

会社概要 2021年3月31日時点

■ 商号	マナック株式会社
■ 設立	1948年5月
■ 従業員数	198名 (グループ237名)
■ 資本金	17億5,750万円
■ 証券コード	4364

● 事業部別売上比率

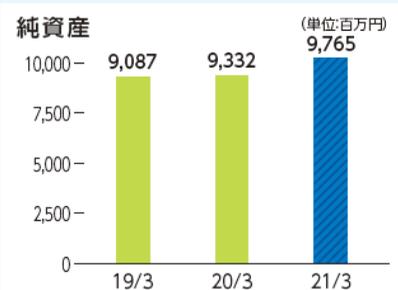
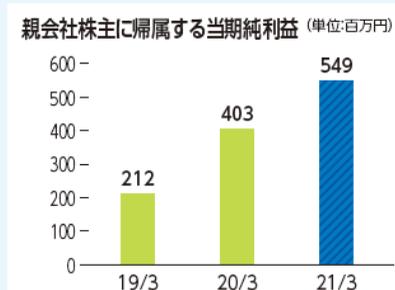
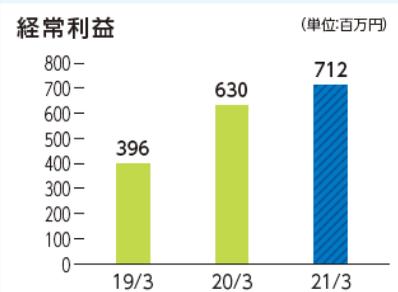
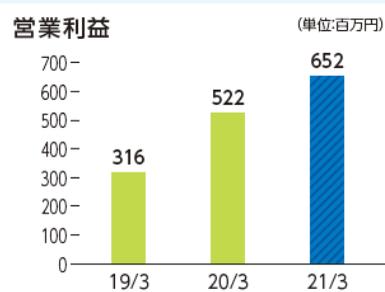
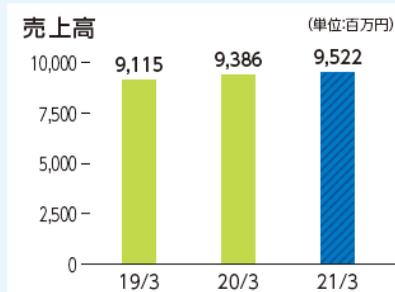


拠点

■ 事業拠点	
本社	東京都中央区日本橋3丁目8番4号
大阪営業所	大阪府大阪市西区京町堀1丁目6番2号
福山工場・研究所	広島県福山市箕沖町92番地
※他の研究拠点：	郷分ラボ、富山ラボ、湘南ラボ
郷分事業所	広島県福山市郷分町950番地の1
■ 子会社	
	曼奈科（上海）貿易有限公司 八幸通商株式会社 エムシーサービス株式会社
■ 関連会社	
	コード・ファインケム株式会社

連結財務ハイライト

○ 連結財務ハイライト



企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会からも注目される会社をめざし、常に『革新』

中期計画



今後の事業活動

世界的に感染拡大が続く新型コロナウイルスの収束が長引いた場合、国内経済及び世界経済に大きな影響を与える恐れがあり、引き続き先行き不透明な状況が継続するものと考えられます。

このような状況下において、当社グループ工場は、工場の稼働停止によりサプライチェーンが途切れないよう新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら操業を行っております。今後につきましても、継続した成長に向け、マナック中期計画2021「Challenge for Change～変革への挑戦～」に掲げている重点施策を着実に遂行することにより、現中期計画の最終年度である2021年の目標値達成に向けた事業運営を行ってまいります。

コーポレート・ガバナンス

株主の皆様並びに社会に対する責任を自覚し、経営資源の最適活用を図り、長期的、継続的な株主価値の最大化を実現するとともに、社会規範に沿った事業活動を行い、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の最重要課題のひとつと位置付けています。

基本方針

当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本方針について考え方を定めております。

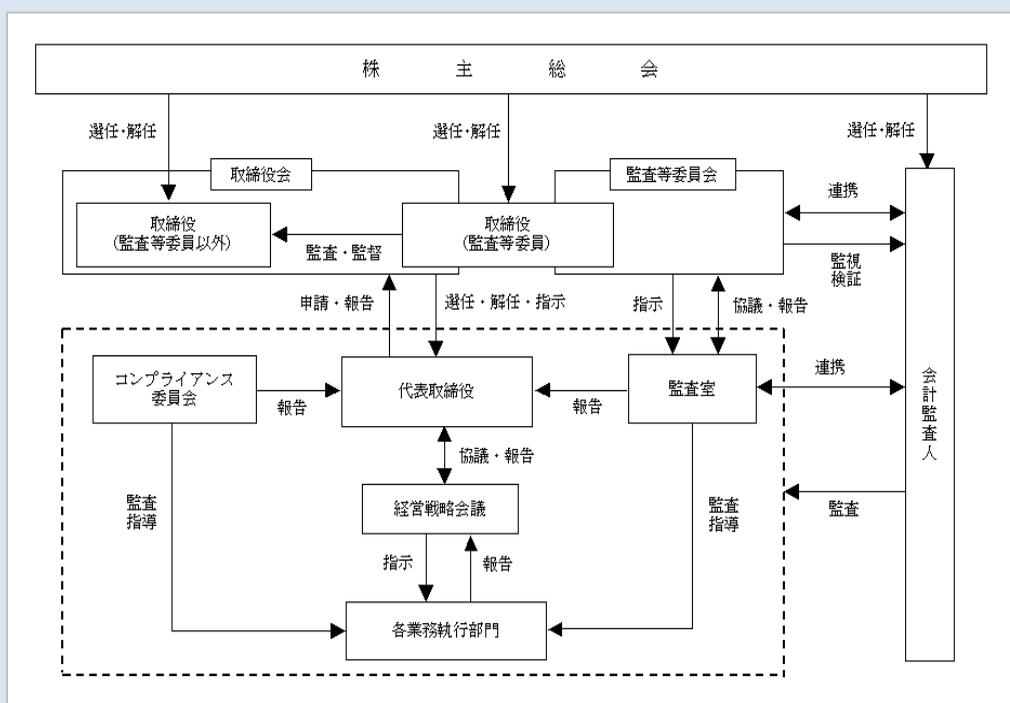
詳細は下記HPをご参照ください。

コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

<http://www.manac-inc.co.jp/manac/pdf/governance.pdf>

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態 監査等委員会設置会社



コーポレート・ガバナンス体制図

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項

ガバナンス体制については、当社の企業規模や事業内容を総合的に判断して、監査等委員会設置会社形態が最適であると判断しており、監査等委員である取締役4名（うち独立役員として指定する者が3名）で構成される監査等委員4名体制で取締役の業務執行の監督機能向上を図るとともに、取締役の業務執行及び企業活動の適法性、妥当性について監査しております。また、当社の属する化学業界や事業内容全般についての知識・経験のある社外取締役1名を、監査等委員である取締役以外の取締役に選任し、監督機能の実効性向上を図っております。

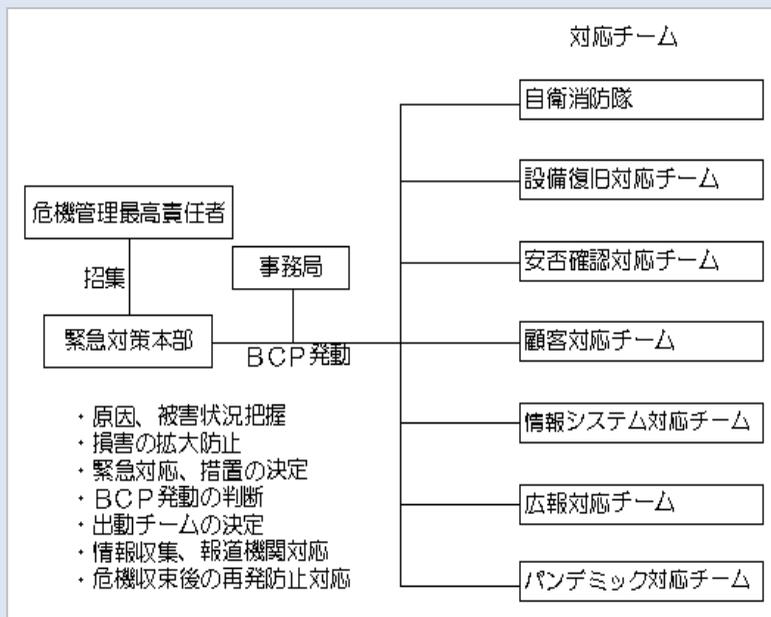
3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）により、監査等委員会設置会社制度が創設されたことを踏まえ、業務執行に対する取締役会の監督機能の強化及び社外取締役の経営参画による透明性・効率性の向上を目的として、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行し、更なるコーポレート・ガバナンスの強化を図ることを目的として、現状の体制を選択しております。

マネジメント

リスク管理

常にさまざまなリスクをあらかじめ念頭において事業活動を行っています。それらのリスクに対応するために、事前の備えと事後の措置として、各種規程を定め、リスクを最小限のものにするために必要な社内体制を確立しています。また、大規模地震を想定した事業継続計画（BCP）に加え、感染症などパンデミックへの対応も行っており、状況に合わせた内容の見直しを検討しております。



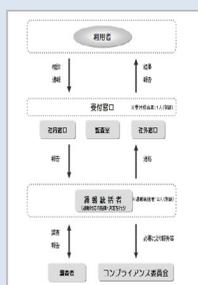
コンプライアンス

「企業行動憲章」に基づいた企業活動を通じて、公正で透明性のある企業を目指すとともに、当社のステークホルダーをはじめ一般社会からの確固たる信頼を確保し、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。また、持続可能な社会の実現のため、随時内容の見直しを検討しております。

企業行動憲章

私たちは、スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献するためにこの企業行動憲章を定めます。私たちは、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図り、社会的存在価値のある製品を提供し続けたいと考えています。

1. 私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもってグローバルな事業活動を展開します。
2. 私たちは、良き企業市民として、公の秩序に従い、信義誠実な行動を行うと共に社会貢献に努めます。
3. 私たちは、会社情報を適正に管理し、適時、適切に情報開示し、公正で透明な経営を行います。
4. 私たちは、反社会的勢力とは一切の関係を遮断します。
5. 私たちは、人間の人権と人格の尊重はもとより、各国・地域の文化や慣習に配慮し、社会の発展に貢献します。
6. 私たちは、株式公開企業として、地域社会、取引先、株主、投資家、従業員との信頼と関係を大切に考えます。
7. 私たちは、環境と安全に十分配慮します。
8. 私たちは、お客様に満足して頂くため、化学技術を通じて社会に新たな価値を提供します。



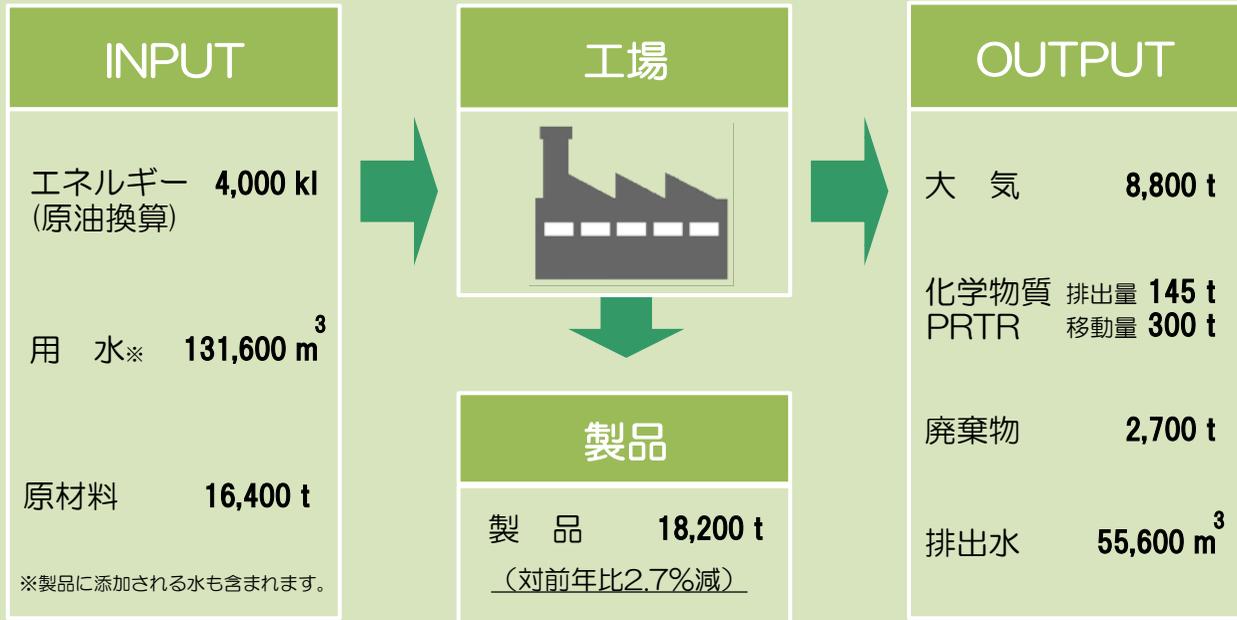
内部通報制度

より使いやすく、信頼性もより確保される仕組みを目指して、内部通報制度を運用しています。

環境への取り組み

マテリアルフロー

事業活動に伴い投入する資源やエネルギー、排出物質を定量的に把握し、環境負荷の低減や地球温暖化防止対策に役立てています。今後とも省資源、省エネルギー対策とともに、廃棄物の削減、再資源化を推進していきます。



環境マネジメントシステム

ISO14001：2015年版規格に基づいた環境マネジメントシステムを確立しています。「環境基本理念」、「環境方針」に沿った環境への取り組み計画の策定と推進を継続し、改善に努めています。

■環境基本理念

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。この恵まれた環境を守ることも企業の使命の一つであると認識しています。

当社の事業は、常に化学物質と向き合っています。

化学物質は、その取扱いを一步誤ると、危険で有害なものであり、地球温暖化や環境汚染のもととして危惧されています。

しかし適切な管理下に取り扱えばその用途は格段に広がります。

当社は、化学物質の有益性を生かしうるために、様々な場面において、環境への影響や、その対策を考えて行動し、社会の進化・発展に貢献するとともに、「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」を目指します。

■環境方針

1. 地球温暖化や環境汚染の防止を念頭においた事業活動に努めます。
2. 活動の各段階において、大気への排出の抑制、廃棄物の削減、省エネルギーに取り組みます。
3. 全従業員に対して積極的な教育・訓練を実施し、環境に対する意識と知識の向上を図り、汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に関する各種法令・協定等を理解し、順守します。
5. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、定期的なレビューを実施すると共に、継続的改善を図ります。



環境への取り組み

省エネルギー

当社はエネルギー管理「特定事業者」であり、生産のほとんどを受け持つ「福山工場」（「第1種指定工場」）を最重点に、全社において省エネルギーを推進しています。

福山工場の熱源であるボイラーは、ガス専焼の小型高性能機を台数制御運転しています。一方、電力削減は工場の原動機を中心としながら事務/生活系での一般電力も含めた省エネに継続して取り組んでいます。

また、毎年、最大需用電力（デマンド）のピークカットを重点課題とする『節電の夏』に注力しております。

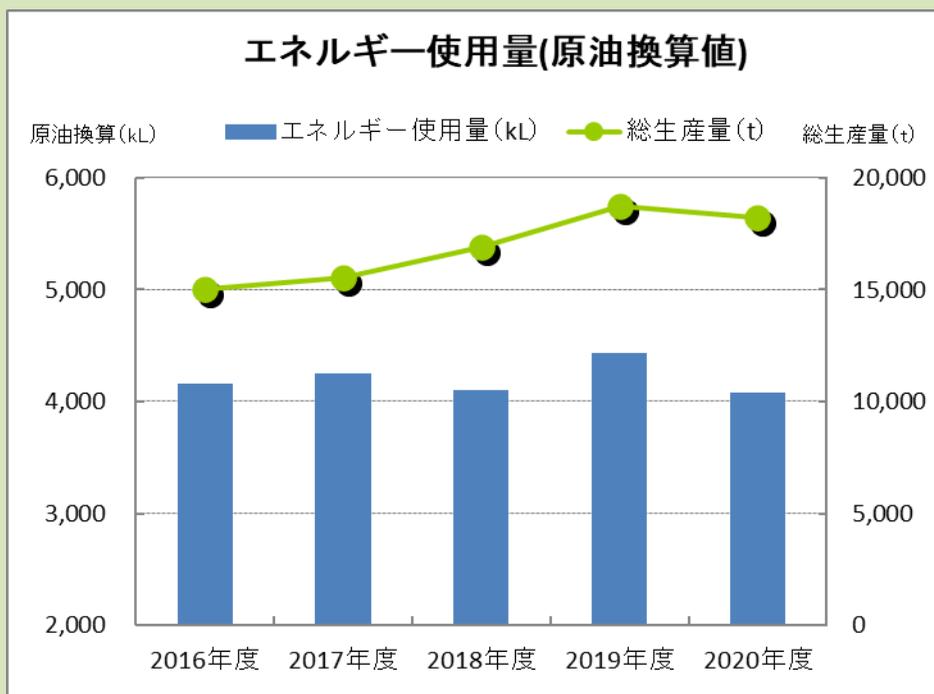
■ 継続中の取り組み

- ・ 省エネ型冷凍機、空調機への更新
- ・ LED電灯の導入（生産施設を含む）
- ・ 省エネ設備の導入（ヒートポンプ式温水製造機等）
- ・ 屋根の遮熱、窓の遮光等により空調の負荷ピークを緩和
- ・ クール・ビズ、ウォーム・ビズ並びに、こまめな消灯や空調停止などの節電活動
- ・ 工程の時間調整によりピーク電力をシフト
- ・ 設定圧力（空気圧、蒸気圧）の低下による負荷低減
- ・ 冷凍機系等の定期整備・更新（熱交換部、冷却塔など）
- ・ 配管、トラップ、保温材などの自主保全活動（洩れ、熱ロス防止）



■ エネルギー使用量の推移

高機能製品（小ロット・長工程型）の需要が維持される一方、エネルギー高消費型製品が減少したことから、エネルギー使用量は減少しながら、単位生産量あたりの使用量が低減となりました。



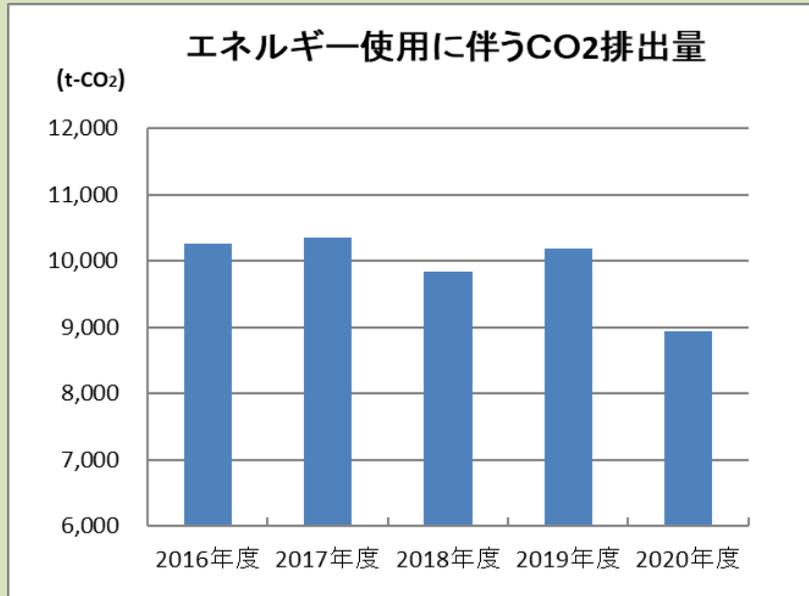
環境への取り組み

地球温暖化防止

当社の排出する温暖化ガスのほとんどはエネルギー起因CO₂です。従って、省エネ活動がそのまま地球温暖化の防止活動となります。ボイラーの燃料転換・効率化並びに電力低減に注力する（前頁に記述）とともに、廃棄物発生の抑制（委託先での温暖化ガスの減少に寄与）等にも取り組んでいます。

■二酸化炭素（CO₂）排出量の推移

エネルギー使用量に連動し、CO₂排出量も減少しました。

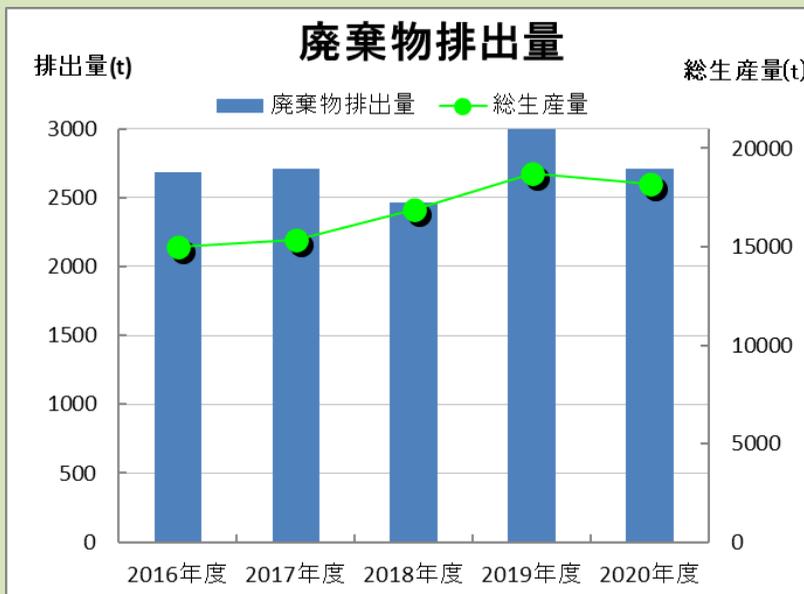


廃棄物削減

当社では、廃棄物の分別回収、溶媒のリサイクル等廃棄物の適正な処理と再資源化に努めています。また、廃棄物の処理に関しては優良認定処理業者を選択し、3Rの推進を実施して、燃料やセメント原料への転化を行い、循環型社会の構築に貢献しています。

■廃棄物排出量の推移

2020年度は総生産量の減少に伴い、昨年度より少ない廃棄物排出量となりましたが、引き続き工程等の見直しや社内での3Rを推進し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

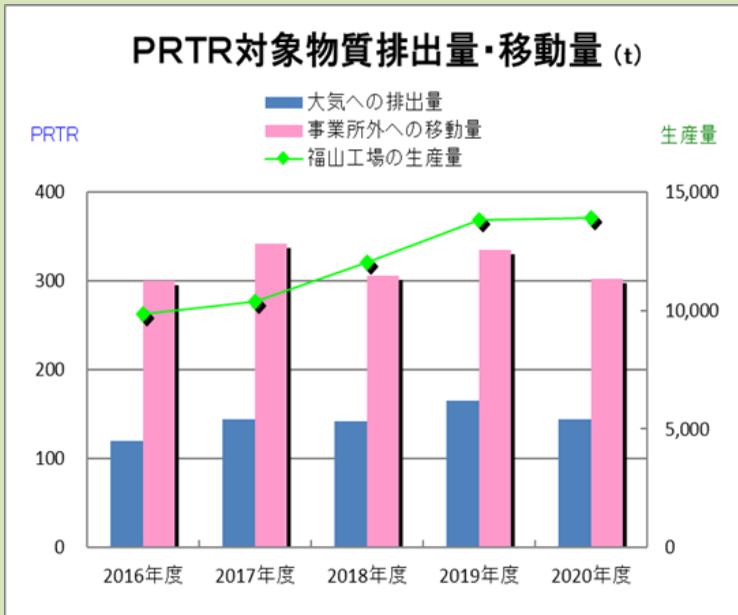


3Rとは
Reduce（リデュース：発生抑制）
Reuse（リユース：再使用）
Recycle（リサイクル：再資源化）
の頭文字をとったものです。

環境への取り組み

化学物質の排出管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づき、その対象事業所となる福山工場においては化学物質の環境への排出量・移動量を把握しています。対象物質の取扱量が増加傾向にあることから、ISO14001システムとも連動し、環境目標活動として継続的に取り組んでいます。



環境目標活動

- 設備： 密閉化の推進
冷却能力の向上
- 工程： 作業方法の改善
除害装置の適正使用
- 取扱者： 適切な取扱方法の教育

※PRTRとは

「Pollutant Release and Transfer Register」

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境（大気、水、土壌）への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。

その他

環境配慮型製品「AdBlue®（アドブルー）」高品位尿素水溶液設備

ガソリン車に比べて燃費がよく、省エネルギーやCO₂削減の観点から再びディーゼルエンジンが注目され、現在、需要は順調に拡大しています。

当社も需要の拡大に対応すべく、2015年に高品位尿素水溶液設備を強化しています。設備は、以前よりも釜容量が大きく、作業スペースも広く設計されていますので、作業性や、生産効率が向上しています。

これからもディーゼルエンジンに対する環境規制は、高度な処理技術が要求される為、厳しい品質規格に適合するように、ライセンスを取得しており、環境配慮型製品として提供しています。



高品位尿素水溶液設備

電動フォークリフトの採用

排ガス対策として電動フォークリフトを採用し、2020年度は14台が稼働しています。

ヨウ素の有効利用とリサイクルの推進

合併企業のパートナーである株式会社合同資源と共同で、限りある天然資源であるヨウ素のリサイクルを推進しています。ヨウ素化合物の効率的な生産体制のみならず、ヨウ素化合物からのヨウ素回収リサイクルシステムを構築し、リサイクルの推進に取り組んでいます。



電動フォークリフト

安全衛生への取り組み

安全衛生管理体制の確立

福山工場の安全衛生方針は、「みんなで進める安全衛生活動を通じて、事故・災害の未然防止を図り、安全文化を構築する」を掲げています。安全、安心の社会的な要請が高まる中で、従業員一人ひとりが安全意識を優先した安全に取り組んでいます。基本的なルール、決めたこと、決められたことは守り、その必要性（なぜ）を考え行動する。各人の自主安全考動と安全衛生グループによる自主安全衛生活動、そして工場全体、みんなの協働による、先取りの安全衛生活動により、事故・災害ゼロを目指し、安全第一の文化を醸成しています。

※「考動」とは、各自がよく考え、行動に移す事を言います。

■安全衛生活動

労働災害ゼロ、職業性疾病ゼロ、保護具完全着用を目指し、従業員が安全で安心して働くことができる快適な職場環境を整備し、安全衛生の水準向上に努めています。

安全衛生の重点施策として4項目を定め、安全衛生委員会を主体に活動を行っております。また、委員会内に設けたワーキンググループもテーマ毎の自主的な活動を展開しています。

■重点施策

1. 職場リスク低減活動

- ・H・H、K・K活動（ヒヤリ・ハット、キ・ガカリ活動）
- ・危険予知活動 現場KY、指差考動
- ・職場パトロール年間計画による定期と不定期パトロール
- ・安全衛生職場会議(毎月1回以上)
各部署に潜在する安全衛生テーマについて解決に向けた取り組み
過去の事故・トラブル対策事例の再検証

2. ところとからだの健康管理

- ・目配り、気配り、声かけ 朝礼、始業、終業時のミーティング等により実施
- ・**smile**（スマイル）運動「明るい笑顔のあいさつから」を展開
- ・健診事後の積極的対応への促進による定期健康診断有所見率の改善の取り組み

3. 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰（しつけ））実践

- ・長期保管原料、製品、機器、資材の適正在庫、適正保管
リスクを考慮した保管管理へ
- ・一仕事一片付けの定常化
作業の区切りで片付けをする
- ・週末清掃の有効利用と各部署特性に応じた5S習慣付け・・・意識定着

4. 化学物質リスクアセスメント

- ・継続取り組み

※H・H、K・K活動（ヒヤリ・ハット、キ・ガカリ活動）結果として事故などに至らなかったが、「ヒヤリ・ハット」した経験、そうなる危険があるのでと、「キ・ガカリ」に思っていることを職場で共有することによって、危険や事故を未然に防止する活動。

■その他

1. ワーキンググループによるテーマ別活動

- ・安全教育の企画（危険物の安全な取扱い、静電気の防災、等）
及び安全の日（毎月1日）の行事の推進
- ・H・H、K・K活動の推進及び結果報告
- ・5Sによる保管管理の充実

2. 安全衛生パトロール

- （役員、産業医、安全管理者、衛生管理者）

3. 全国安全週間、全国労働衛生週間の行事企画推進

4. 外部関連団体との連携安全管理体制の確立



安全衛生パトロール

安全衛生への取り組み

健康の保持増進

当社では、従業員一人ひとりが健康に過ごせるよう、年2回の定期健康診断を行い、検診の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医による個別のフォローを実施するなど、生活習慣病などの予防に努めています。その他、広島県の健康関連事業と連携し取り組んでいます。

- 産業医による健康管理、衛生の指導
- 産業医による心と身体の健康相談（毎月）
- 検診機関 保健師による日常生活改善指導、健康への支援
- 衛生講習会「コロナ関係について」開催
- 季節要因による流行疾患の情報（毎月）
- 産業医職場巡視による衛生面、健康面の指導（毎月）

心の健康づくり

メンタルヘルス対策として、全従業員を対象とした「心の健康診断」講習会を実施し、心と身体の健康管理に取り組んでいます。

■心の健康づくり計画

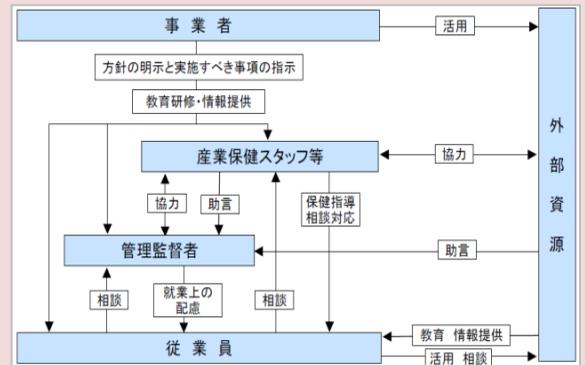
従業員とその家族の幸福な生活のために、また事業場の生産性及び活気のある職場づくりのために重要な課題であり、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化などを含めて広い意味での心の健康づくりを推進しています。

2015年12月の労働安全衛生法改正により、ストレスチェック制度が創設されました。

※ストレスチェックの目的

- ・一次予防。（従業員のメンタルヘルス不調の未然防止）
- ・自分自身のストレスへの気づきを促す。
- ・ストレスの原因となる職場環境の改善につなげる。
- ・メンタルヘルス不調への対応し予防する。

当社では、2010年に心の健康診断の実施を開始し、2012年度から心の健康づくり計画により運用しています。



心の健康づくり体制図

■心と身体の健康づくり、明るい職場環境の推進

社外専門家のケアによる、家族を含めた心の健康診断相談の窓口を設置しています。

■メンタルヘルス講習会

幹部職の方を対象に「ココロの健康診断 e Me」の現地結果フィードバックとラインケアの研修を開催しました。

中期計画のありたい企業像に掲げている「個々の社員が情熱と誇りを持ち、多様性を認め合い生き生きと働く企業」になる為に多方面からの取組みの必要性に対応する為、今回はメンタルヘルスの観点から、ストレスの原因となる職場環境の改善に繋げる取組みとして行われました。

また、中堅層一般職向け研修としても行われました。生き生きと働く為に、自分の仕事やストレスを適切にマネジメントするためのヒントを学んでいただくこと、仕事への向き合い方などを振り返りつつ、生き生きと働き続けることを目的としています。

安全衛生への取り組み

保安・防災

危険物施設や薬品保管施設などでの事故発生（火災・爆発、漏洩）を想定した対応訓練を繰り返し行い、防災に関する継続的なレベルアップに努めています。また、自然災害（地震、津波）への対応と緊急用資材・備蓄品等も定期的に確認し、BCPの一環としております。



【近年の防災訓練実施状況（福山工場）】

年月	事故想定
2016年 5月 11月	ガス接続部破損・ガス漏洩 (同上) 指揮・連絡訓練
2017年 6月 11月	設備破損・薬液、ガス漏洩 設備破損によるガス漏洩
2018年 3月	地震～集合～点呼～安全確認
2018年 6月 11月	異常反応によるガス発生 薬液貯槽タンクの配管破損・漏洩
2019年 3月	地震想定 机上訓練 ～安全確認、安否確認
2019年 5月 11月	設備破損による薬液、ガス漏洩 高圧ガスの配管破損・ガス漏洩
2020年 3月	地震想定 机上訓練 ～安全確認、安否確認
2020年 6月 11月	基本動作、操作の確認、隊列訓練 臭素漏洩・ガスの危害（拡散）防止
2021年 3月	地震想定 机上訓練 ～地震発生時の初期行動



化学物質安全・物流安全

便利で快適な私たちの生活は、さまざまな化学物質に支えられていますが、これらの化学物質は多くの法令などにより規制されています。改正された法令には随時対応し、安全な取扱いを心掛けるとともに、SDS、ラベル、イエローカード等により、お客様や物流関係の方にも情報を提供しています。

■GHS対応

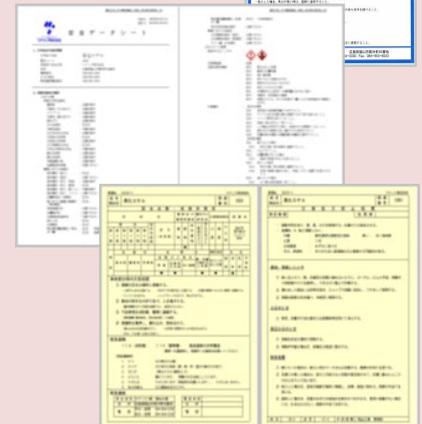
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づいて、化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示したラベルへの対応を進めています。



■SDS（安全データシート）による情報提供

化学品の安全な取扱いを確保するために、化学品の危険有害性等に関する情報を記載した文書SDS（安全データシート）をお客様に提供するとともに、社内の担当者にも通知し、取扱い時の注意喚起を促しています。

GHS、JIS等の最新版への移行を進めています。



■イエローカード

万が一の輸送中の事故に備え、物流安全管理指針に沿って、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を記載した緊急連絡カード「イエローカード」を作成し、輸送中の注意喚起を促しています。

社会との関わり

地域活動

当社では、地域社会の一員として、よりよい社会をつくるための取り組みとして、様々な地域活動へ積極的に参加しています。



■ 福山シティFCとのオフィシャルクラブパートナー契約の締結

福山シティフットボールクラブ（福山シティFC）の掲げる「スポーツを通じて地域の課題を解決し、100年先の福山を創生する地域課題解決型総合クラブ」というコンセプトに賛同し、2021年1月に福山シティFCと「オフィシャルクラブパートナー契約」を締結しました。

福山市に本店を置く企業として、福山シティFCと協力しながら、より一層の地域社会の発展に貢献していくと共に、福山シティFCの活動を応援してまいります。



■ マナックかわまちふれあい広場

2020年4月、芦田川かわまち広場公園施設の一部（芝生公園）を対象としたネーミングライツ契約を福山市と締結しました。福山市民の皆様が気軽に利用でき、たくさんの方がふれあえる場となることを願って、施設名称を「マナックかわまちふれあい広場」としました。

「マナックかわまちふれあい広場」を活用したイベントとして、2020年11月の「大人の運動会」や、2021年3月の「福山みらいフェスタ」が開催されました。「福山みらいフェスタ」では、425名の方にご来場頂き、音楽団体の演奏、地元学生の鼓笛隊やチアの発表、福山シティFCのキックオフカンファレンスなど、様々なイベントで盛り上がりました。

今後も「マナックかわまちふれあい広場」の活用を通じて、地域社会の発展に貢献していきます。



社会との関わり

■ 地域の学校との関わり

福山工場近隣の小学校などに、小学生新聞、英字新聞の提供を続けています。

また、福山市内の中学校からの依頼に対応し、福山工場での職場訪問活動の受け入れを行っています。職場体験や従業員との座談会を通じて、学生の方々に化学産業ならびに当社事業への関心と理解を深めていただいています。



■ 清掃活動

従業員による事業所周辺の美化活動を継続して行っており、除草作業も定期的に行っています。これらの活動を通じて地域の環境美化活動に努めます。



■ マナック所蔵品の化学遺産への認定

2021年3月、マナックの所蔵品が公益財団法人日本化学会第12回「化学遺産」として認定されました。臭素製造の歴史を伝える貴重な資料として、石製臭素蒸留塔、蒸留塔の有孔板及び磁性臭素容器が、「化学遺産」の一部として認定されています。

日本では古くから瀬戸内地方の製塩副生の苦汁を原料として臭素が生産されていました。瀬戸内の塩田をルーツに持ち臭素化合物を製造している当社は、1983年に有限会社吉川化学工業所が使用していた石製臭素蒸留塔（キュビルスキー塔）を譲り受け、当社福山工場（広島県福山市）に移築して臭素記念塔として展示を開始いたしました。現在は蒸留塔の有孔板および東ソー株式会社から譲り受けた磁製臭素容器も併せて、蒸留塔の周囲に展示しております。

詳細情報は下記QRコードからご覧いただけます。



責任ある調達

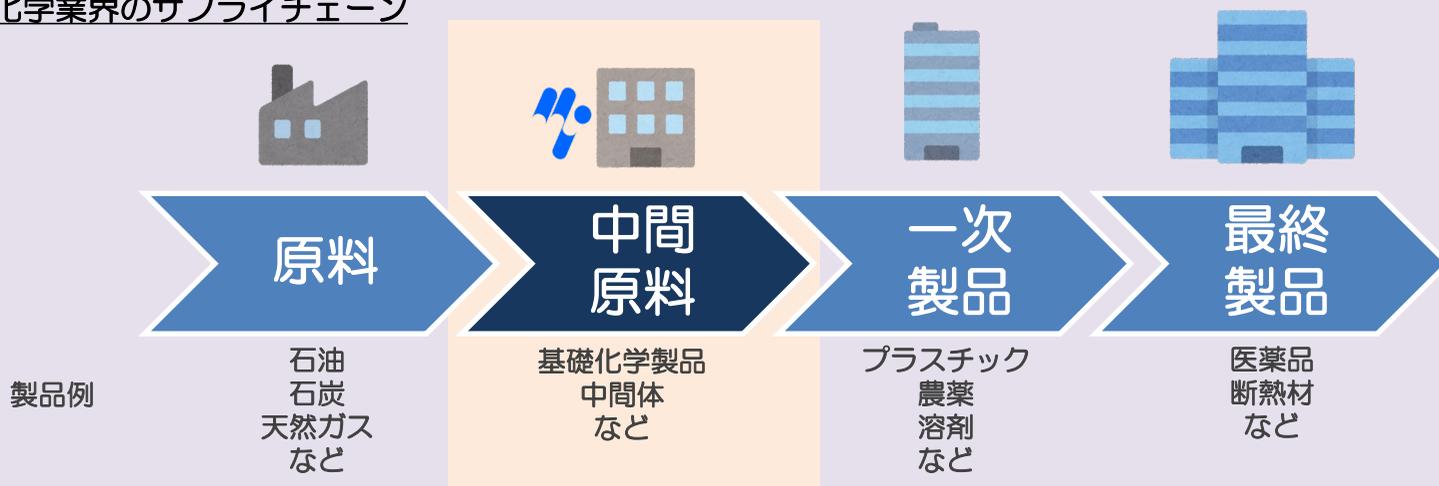
基本方針

当社では、社会、環境、人権に配慮した責任ある調達活動を行っております。自社のみならず、サプライチェーン全体との連携を大切にしております。お取引先様からのCSR調達関連の調査協力やガイドラインに賛同するほか、自社の購買方針の作成及び調達先への提示・遵守の取り組みを検討しております。持続可能な社会の実現のために、サプライチェーン全体のCSR活動推進に取り組んでまいります。

また、事業におけるコンプライアンス、公正取引、企業倫理のリスクを、内部監査の実施や内部通報制度、信用調査などによって、定期的に把握しております。



化学業界のサプライチェーン



サステナビリティ調査

今回のCSR報告書期間中に、当社は国際的なサステナビリティ調査機関EcoVadis社※によるサステナビリティ調査を受けました。調査の結果、「シルバー」評価（上位25%）を取得しました。この調査は「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な調達」の4つの観点から、企業の持続可能性を評価するものです。

当社はとくに「環境」の項目について高評価を得ております。今回の結果を受け、現在不足している取り組みについては改善を行うとともに、今後も社会課題解決に向けた取り組みを継続的に推進し、持続可能な社会の実現に寄与することにより持続可能な企業となるよう努力してまいります。

MANAC INC (GROUP)

中央区・日本 | 基礎化学製品、肥料及び窒素化合物、プラスチック及び合成ゴム素材製造業



※EcoVadis社のサステナビリティ評価に関しては下記サイトをご参照ください。

<https://ecovadis.com/ja/suppliers/>

持続可能な社会に向けた取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

マナックは幅広い分野で使われている化学品の中間体の製造を通じて社会に貢献しております。中でも特に健康と福祉分野に大きく関連しております。具体的には医薬中間体、抗菌剤、難燃剤などの製造になります。マナックの製品を使うことにより、安全かつ快適な生活環境づくりが実現可能になります。また、雇用機会の創出や研究開発の産学提携により、地域経済の活性化にも貢献しております。



■マナックの経営基盤

スペシャリティーケミカルで 社会の進化・発展に貢献

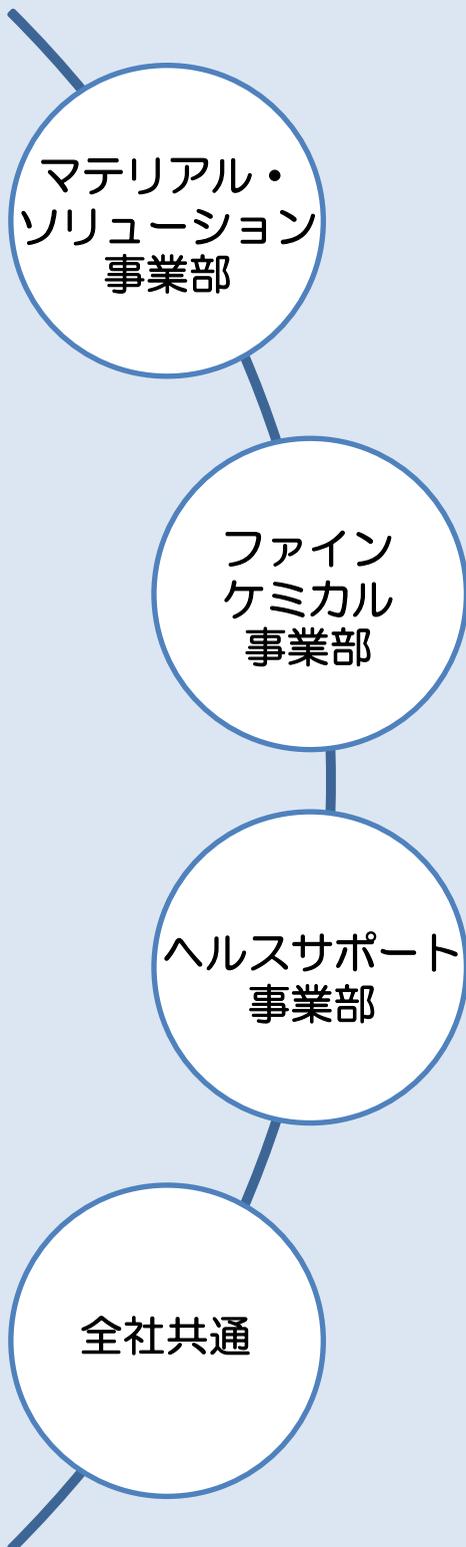


マナックは1948年の設立以来、海から生まれた臭素化・ヨウ素化技術を進化させ、電子・情報・医療分野をはじめとする先端技術産業からの「高度なニーズ・潜在的なニーズ」にお応えすべく製品開発を進めています。また、持続可能な社会に向け、直面した課題に配慮した活動にも取り組んでいます。このような経営方針のもとで、企業活動を行い、『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』という企業理念の実現を目指しています。

持続可能な社会に向けた取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）との関連性

化学品製造という本業以外に行う環境保護活動のほか、マナックでも既に本業の中でSDGsへの貢献に関連する取り組みが行われています。マナックの製品が世の中に広まることに伴って、SDGsの目指す「誰一人取り残さない、持続可能な社会」の実現に近づきます。実際にマナックではどのような点がSDGsのターゲットの実現に貢献しているのかを見ていきます。



■ 難燃剤及び難燃材料に関連するビジネス



■ 医薬品や電子材料の中間原料に関連するビジネス



■ 人工透析薬剤用原料、抗菌剤原料に関連するビジネス



■ 社内の生産、研究、購買、雇用活動に関連する取り組み



持続可能な社会に向けた取り組み

新規難燃材料（難燃WPC）の開発

中期計画に則り、持続的な利益創出のための「基盤構築」に向けた取り組みを実施しております。マテリアル・ソリューション事業では、これまでの難燃剤（添加剤分野）から、SDGsの観点を意識して材料分野に踏み込んだ難燃材料の研究開発に注力しております。

例えば難燃機能を含む新しい機能を持たせたWPC（Wood-Plastic Composite）の開発に挑戦しております。アライアンス先との共同開発も視野に入れ、機能性の高い材料の開発、販売を目指しています。

※WPC（Wood-Plastic Composite）とは

樹脂に木粉を混ぜた複合材料です。軽量で強度があるという特長があるほか、木質資源を活用するので石油使用の削減にも貢献できます。現行のWPCはデッキ材などのエクステリア建材に主に利用されていますが、燃えやすいので用途が限られています。これを難燃化にすることによって、安全性が高まり用途の拡大が期待できます。



「難燃WPC」の開発製造活動が貢献できるSDGs

- ① 原料となる木粉は間伐材等を使用することができるため、建材・家具に向かない木質資源の持続的利用に貢献できます。
- ② 木質資源を活用するので石油使用量を削減できます。
- ③ 従来の難燃材料と異なる性質を持っているため、様々な応用が期待できます。



Etak®セーフティーコート®

「Etak®」は、当社と広島大学大学院医系科学研究科（歯）二川浩樹教授で共同開発し製品化したエトキシシラン系の抗菌・除菌成分です。乾燥後も抗菌・抗ウイルス効果が1週間程度持続する特徴があり、特定の菌やウイルスから環境を守ることが期待できます。詳細内容は当社のEtak®特設サイトにてご覧いただけます。

当社では、このEtak®を製造し、抗菌製品の原材料として各社へ供給しているほか、Etak®を有用成分として配合した高濃度アルコールタイプの除菌・抗菌コーティング剤「Etak®セーフティーコート®」を業務用として製造・販売しています。当社は、Etak®成分を配合した業務用除菌・抗菌コーティング剤「Etak®セーフティーコート®」の提供を通じて、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」の実現に貢献してまいります。



「Etak®セーフティーコート®」の効果・特徴

噴きかけた直後はアルコールの効果で除菌。アルコールが乾いた後にEtak®が噴きかけたモノの表面に固定化し、コーティングするため、後から菌やウイルスが来ても1週間抗菌効果を持続します。

※全てのウイルス・菌に効果があるわけではありません。使用状況により、持続力は異なります。
※「Etak®セーフティーコート®」は業務用除菌・抗菌コーティング剤のため、一般消費者向けの販売は実施しておりません。
※「セーフティーコート®」は、マナック株式会社の登録商標です。
「Etak®」は株式会社CampusMedicoの登録商標です。



Etak®特設サイト

持続可能な社会に向けた取り組み

■固定化抗菌剤「Etak®セーフティーコート®」の寄贈

現在、世界的に蔓延し、日本国内でも様々な地域で感染が拡大している新型コロナウイルスの感染拡大予防にお役立ていただくため、福山市、東広島市、広島市民病院機構、及び広島大学に“固定化できる抗菌剤「Etak®セーフティーコート®」”を合計1592L寄贈しました。

福山市への寄贈分については、福山市内の小中学校を中心に配られ、子どもたちが安心して学校に通える環境を整えるために活用されています。



広島県SDGsビジネスセレクトブック

広島県所在の企業がSDGsに関する様々な取り組みを進めていることを、県内外に知ってもらうことを目的とした「SDGsビジネスセレクトブック」（広島県主催）に参画しました。2回目の参加となった今回は、学生記者が取材に来て下さいました。マナックの目標「3.すべての人に健康と福祉を」への具体的な取り組みやSDGsの意識で生まれた変化等様々な質問にお答えしました。詳細内容は下記QRコードからご覧いただけます。



前回は社内のSDGsへの理解を深めることだけで精一杯でしたが、今回は自社の事業活動がどのような社会貢献につながるのかを社内外の人に説明できるようにもなりました。まだまだ始めたばかりですが、昨年からスタートした社内のSDGs啓蒙活動の効果も少しずつ見えてきており、社員のSDGsへの認知度が高まったことも実感しました。

今では社内で企画を検討するときも、「それは新しいSDGsの目標達成に貢献できそうだ」といったように、SDGsを基準とした意思決定がされるようになり、自分たちが社会にどう貢献できているかを明確にすることで、自社に対する誇りと責任感を持てるようになりました。

今後は、企業や行政などが協力してSDGsに取り組むことも重要だと思っています。

